

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）事後評価結果

大 学 名	北陸先端科学技術大学院大学
整理番号	i-3
事 業 名	インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	<p>本プログラムは、インドを中心とする新興国における知的にたくましい先端科学者・技術者の育成のため、短期から長期の学生相互交流を企図した協働教育プログラムの構築を目指して実施されたものである。</p> <p>当初予定されていたインド理科大学院大学バンガロール校とのダブル・ディグリー制度は単位認定制度の問題により実現不可能となったほか、既に実施済みであったデリー大学とのダブル・ディグリー制度も先方大学の改組によって中断を余儀なくされるなど、事業目標とした制度の構築において大きな課題に直面したが、事業開始3年目以降はインド工科大学ガンディナガール校と博士前期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムを構築・実施するなど、様々な制約に柔軟に対応し、実現可能な選択肢を活用した努力が認められる。また、短期プログラムの実施、国際ワークショップやセミナーの開催によって、学生の相手国に対する関心を喚起するための工夫や、産学連携を礎として現地企業でのインターンシップを構築するなど、当初から懸念されていた日本人学生の留学意欲を高める施策が実行されてきた。さらに、科学技術世界展開講座の開講や、イノベーションと創造力を生み出すための関係科目の準備を進めるとともに、成績評価のガイドライン等が整備された。協働教育研究指導プログラムの派遣・受入においては、学生の専攻分野とのミスマッチを防ぐための協議が綿密に行われ、派遣期間中も学修状況を把握し、必要に応じて指導教員が派遣先を訪問するなど、丁寧な学生指導がなされた点は、教育の質保証という観点から、重要な取組である。学内的には国際連携本部の設置を図り、留学支援センターやグローバルコミュニケーションセンターの機能向上に努めるなど、プログラムの実施によって国際化への全学的な取組が進んだことも大きな成果である。</p> <p>一方で、単位取得を伴う派遣は計画の半数程度に留まったことから、今後一層の努力が望まれる。また、2018年から学生の受入と派遣が開始されたダブル・ディグリー制度の拡充や協働教育研究指導プログラムの活用とともに、日本人学生の語学力の向上に向けた取組を強化することで、知的にたくましい人材の育成を目指す教育研究事業のモデル化を目指していくことが望まれる。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴うプログラムを実施することで、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことを期待する。</p>